Japanese
Satan's Throne is on Earth
TCA-181SAT

地球上のサタンの御座

ウィリアム・マリオン・ブラハム

www.messagehub.info

Japanese
Satan's Throne is on Earth
TCA-181SAT

地球上のサタンの御座

ウィリアム・マリオン・ブラハム

www.messagehub.info

はじめに

オーディオや転写された1100の説教がウィリアムブラナムによって語られたものが無料でダウンロード可能で又多くの言語で印刷可能になっています。(日本語での翻訳あり)

変更が行わないかぎり、メッセージを無料でコピー、配布することは許可されています。

はじめに

オーディオや転写された1100の説教がウィリアムブラナムによって語られたものが無料でダウンロード可能で又多くの言語で印刷可能になっています。(日本語での翻訳あり)

変更が行わないかぎり、メッセージを無料でコピー、配布することは許可されています。

www.messagehub.info

地球上のサタンの御座

サタンの王座がなぜ賛辞なのか、それは、サタンの居座るまさにその場所で、サタンに打ち勝った十字架の戦士たちの勇敢さに賛辞が送られるべきだからです。彼らは御名とイエスの信仰によって、闇の指導者たちのふところで、戦いに勝ちぬきました。ダビデの喉を潤すために敵の陣地に侵入して水を汲んできた勇士たちのように、この信仰の偉人たちもサタンの地上の要塞を侵して、死の陰に覆われている人々に伝道し熱心に教えながら救いの水を運びました。まさに幾多の賞賛に値します。

サタンの王座とサタンの領域に関する言葉が、神からの、選ばれた者たちへの賛辞になるのは、教会において絶対的権力を増しつつある悪に対して、彼らが公然と非難する舞台を敷いたからです。

ペルガム:サタンの玉座と住居。多くの人にとって、これらのフレーズは、真に歴史的なものではなく、単に絵に描いたようなものでした。しかし、それらは確かに現実のものであり、歴史がそれを裏付けています。ペルガモスは確かにサタンの玉座であり、住む場所でした。それは次のように起こりました:

地球上のサタンの御座

サタンの王座がなぜ賛辞なのか、それは、サタンの居座るまさにその場所で、サタンに打ち勝った十字架の戦士たちの勇敢さに賛辞が送られるべきだからです。彼らは御名とイエスの信仰によって、闇の指導者たちのふところで、戦いに勝ちぬきました。ダビデの喉を潤すために敵の陣地に侵入して水を汲んできた勇士たちのように、この信仰の偉人たちもサタンの地上の要塞を侵して、死の陰に覆われている人々に伝道し熱心に教えながら救いの水を運びました。まさに幾多の賞賛に値します。

サタンの王座とサタンの領域に関する言葉が、神からの、選ばれた者たちへの賛辞になるのは、教会において絶対的権力を増しつつある悪に対して、彼らが公然と非難する舞台を敷いたからです。

ペルガム:サタンの玉座と住居。多くの人にとって、これらのフレーズは、真に歴史的なものではなく、単に絵に描いたようなものでした。しかし、それらは確かに現実のものであり、歴史がそれを裏付けています。ペルガモスは確かにサタンの玉座であり、住む場所でした。それは次のように起こりました:

ペルガモは、もともとはサタンの住むところではありませんでした。バビロンこそが文字通りにも比喩的にも昔からずっとサタンの本営でした。サタン礼拝の起源はバビロンの都市です。

> *「クシュはニムロデを生んだ。ニムロデは地上で最初の権力者となった。彼は主のおかげで、力ある猟師になったので、『主のおかげで、力あるニムロデのようだ』と言われるようになった。彼の王国の初めは、バベル、エレク、アカデであって、みな、シヌアルの地にあった。」(創世記 10;8-10)*
>
> *「さて、全地は一つのことば、一つの話しことばであった。*
>
> *その頃、人々は東のほうから移動して来て、シヌアルの地に平地を見つけ、そこに定住した。*
>
> *彼らは互いに言った。『さあ、れんがを作ってよく焼こう。』彼らは石の代わりにれんがを用い、粘土の代わりに瀝青を用いた。*

ます。黙示録 17 章によれば、神はもはやペルガモを、サタンの王座のあるところ、サタンの住むところとは言っていません。今、王座があるのはペルガモではなく、神秘のバビロンです。バビロンではなく神秘のバビロンです。七つの丘の上に建っている町です。頂点に立つ者は反キリストです。なぜなら、彼は唯一の仲介者、唯一罪を許すことのできる方であるキリストの地位を、権利もないのに用いているからです。そうです、最高神祇官は今もいます。

2 www.messagehub.info

ペルガモは、もともとはサタンの住むところではありませんでした。バビロンこそが文字通りにも比喩的にも昔からずっとサタンの本営でした。サタン礼拝の起源はバビロンの都市です。

> *「クシュはニムロデを生んだ。ニムロデは地上で最初の権力者となった。彼は主のおかげで、力ある猟師になったので、『主のおかげで、力あるニムロデのようだ』と言われるようになった。彼の王国の初めは、バベル、エレク、アカデであって、みな、シヌアルの地にあった。」(創世記 10;8-10)*
>
> *「さて、全地は一つのことば、一つの話しことばであった。*
>
> *その頃、人々は東のほうから移動して来て、シヌアルの地に平地を見つけ、そこに定住した。*
>
> *彼らは互いに言った。『さあ、れんがを作ってよく焼こう。』彼らは石の代わりにれんがを用い、粘土の代わりに瀝青を用いた。*

地球上のサタンの御座 35

ます。黙示録 17 章によれば、神はもはやペルガモを、サタンの王座のあるところ、サタンの住むところとは言っていません。今、王座があるのはペルガモではなく、神秘のバビロンです。バビロンではなく神秘のバビロンです。七つの丘の上に建っている町です。頂点に立つ者は反キリストです。なぜなら、彼は唯一の仲介者、唯一罪を許すことのできる方であるキリストの地位を、権利もないのに用いているからです。そうです、最高神祇官は今もいます。

この時からずっと、特に暗黒時代をとおして、肉の子が霊の子を迫害して殺害するのを見ることになるのです。どちらの子も、イシュマエルとイサクのように、神が父だと主張しました。 霊的堕落の暗闇が深くなっていき、神の真の光が薄らいでいって、ほんのかすかに輝く程度になってしまいました。しかし神の約束は真理を秘めています、「光は闇の中で輝いている。闇はどうすることもできない。」

さて、ここに至ってやっと、ニムロドの宗教とキリスト教の混合を歴史的に説明できるところまで来ました。アッタロスがバビロンから逃げてペルガモに行き、ローマ帝国の影響が及ばない領域で王国を築いたことは先に触れました。この世の神に育まれてアッタロス朝は繁栄を極めましましたが、アッタロス3世の治世に、神のみが知る理由で、王国をローマに遺贈しました。これを受け継いだユリウス・カエサルは、霊的な王国をも受け継ぐこととなり、バビロン宗教の最高神祇官となりました。つまり祭司兼王です。代々皇帝がこの官職を受け継ぎましたが、マクシマス3世(Maximus III)は辞退しました。スティーブンスの歴史書によれば、ローマ皇帝が辞退したこの官職を、教皇が引き継ぎました。今日の世界でもまだ継続しています。教皇こそはまさに最高神祇官なのです。彼は三重冠をかぶり、ローマに座してい

そのうちに彼らは言うようになった。『さあ、われわれは町を建て、頂が天に届く塔を建て、名をあげよう。われわれが全地に散らされるといけないから。』

そのとき主は人間の建てた町と塔をご覧になるために降りて来られた。

主は仰せになった。『彼らがみな、一つの民、一つのことばで、このようなことをし始めたのなら、今や彼らがしようと思うことを、とどめられることはない。

さあ、降りて行って、そこでの彼らのことばを混乱させ、彼らが互いにことばが通じないようにしよう。』

こうして主は人々を、そこから地の全面に散らされたので、彼らはその町を建てるのをやめた。

それゆえ、その町の名はバベルと呼ばれた。主が全地のことばを混乱させたから、すなわち、主が人々をそこから地の全面に散らしたからである。」

34 www.messagehub.info

この時からずっと、特に暗黒時代をとおして、肉の子が霊の子を迫害して殺害するのを見ることになるのです。どちらの子も、イシュマエルとイサクのように、神が父だと主張しました。 霊的堕落の暗闇が深くなっていき、神の真の光が薄らいでいって、ほんのかすかに輝く程度になってしまいました。しかし神の約束は真理を秘めています、「光は闇の中で輝いている。闇はどうすることもできない。」

さて、ここに至ってやっと、ニムロドの宗教とキリスト教の混合を歴史的に説明できるところまで来ました。アッタロスがバビロンから逃げてペルガモに行き、ローマ帝国の影響が及ばない領域で王国を築いたことは先に触れました。この世の神に育まれてアッタロス朝は繁栄を極めましましたが、アッタロス3世の治世に、神のみが知る理由で、王国をローマに遺贈しました。これを受け継いだユリウス・カエサルは、霊的な王国をも受け継ぐこととなり、バビロン宗教の最高神祇官となりました。つまり祭司兼王です。代々皇帝がこの官職を受け継ぎましたが、マクシマス3世(Maximus III)は辞退しました。スティーブンスの歴史書によれば、ローマ皇帝が辞退したこの官職を、教皇が引き継ぎました。今日の世界でもまだ継続しています。教皇こそはまさに最高神祇官なのです。彼は三重冠をかぶり、ローマに座してい

地球上のサタンの御座 3

そのうちに彼らは言うようになった。『さあ、われわれは町を建て、頂が天に届く塔を建て、名をあげよう。われわれが全地に散らされるといけないから。』

そのとき主は人間の建てた町と塔をご覧になるために降りて来られた。

主は仰せになった。『彼らがみな、一つの民、一つのことばで、このようなことをし始めたのなら、今や彼らがしようと思うことを、とどめられることはない。

さあ、降りて行って、そこでの彼らのことばを混乱させ、彼らが互いにことばが通じないようにしよう。』

こうして主は人々を、そこから地の全面に散らされたので、彼らはその町を建てるのをやめた。

それゆえ、その町の名はバベルと呼ばれた。主が全地のことばを混乱させたから、すなわち、主が人々をそこから地の全面に散らしたからである。」

(創世記 11:1-9)

バベルはバビロンの本来の名です。その意味は混乱です。この町はハムの子クシュによって始まりましたが、それを屈強で壮麗な王国に仕上げたのは息子のニムロデです。彼は勇敢な狩人でした。創世記 11 章の記述、また異教の歴史によれば、ニムロデは三つのことを達成しました。彼は強力な国を造りたかったので、そうしました。自分独自の宗教を普及させたかったので、そうしました。自分の名を上げたかったので、そうしました。彼が成し遂げたことは、途方もなく大きなことだったので、バビロン王国は世界中の王国の中で金の頭と呼ばれました。そして彼が作り出した宗教は卓越していました。聖書はイザヤ14章と黙示録 17-18 章で、この宗教の正体をサタンのものと指摘しています。そして歴史から、この宗教が世界中を駆け巡って、あらゆる偶像礼拝の素となり、神話のテーマとなったことがわかります。言語の違いから神々の名前は国によって異なりますが、素はこの宗教から出ています。 ニムロデは自分の名を有名にし、彼の弟子たちは言うまでもなく、現在に至ってまでも彼は崇拝され栄誉を受けています。(イエスがご自分を兄弟に明らかにされる時までは、彼への崇拝は続くでしょう。)それもニムロドとは別の名前で崇拝され、最初に彼が崇拝された場所とは違う神殿で崇

の中で激怒している者が心の光を求めるようになるために、主はまず彼を打って目が見えなくさせた。それならば強制的にでも、失われた子たちを教会に戻すことが何で悪いことがあろう。主ご自身が、「大通りにも脇道にも行って、彼らを連れて来なさい」と言われたではないか。もし教会が、神の約束によって受けた力を用いて、大通りや脇道で見つけ出した人々を(異教徒や異端信仰者)強制的に教会に来させるなら、強制されたと彼らに非難をさせないようにしよう。」

流血への飢え渇きがたちまち広まっていきました。スペインの偽のぶどうは、マクシミアヌス帝を味方につけて、みことばを守り、しるしと不思議が伴う活動をしていた真の信者に攻撃を仕掛けました。プリスキリア派の人たちはイタカス司教(385)によってトレヴェス (Treves) に連れて行かれました。彼は彼らを魔術と不道徳を行う者と断定して責め、多くのものが処刑されました。これに対してツールのマルティンやミラノのアンブローズ (Ambrose) が迫害をやめるように嘆願しましたが、徒労に終わりました。迫害が長引くに連れ、この二人の司教はヒダトゥス (Hydatus) 司教やその仲間との交際を一切断ちました。おかしなことに、トレヴェスの教会会議は殺人を承認しました。

4 www.messagehub.info

(創世記 11:1-9)

バベルはバビロンの本来の名です。その意味は混乱です。この町はハムの子クシュによって始まりましたが、それを屈強で壮麗な王国に仕上げたのは息子のニムロデです。彼は勇敢な狩人でした。創世記 11 章の記述、また異教の歴史によれば、ニムロデは三つのことを達成しました。彼は強力な国を造りたかったので、そうしました。自分独自の宗教を普及させたかったので、そうしました。自分の名を上げたかったので、そうしました。彼が成し遂げたことは、途方もなく大きなことだったので、バビロン王国は世界中の王国の中で金の頭と呼ばれました。そして彼が作り出した宗教は卓越していました。聖書はイザヤ14章と黙示録 17-18 章で、この宗教の正体をサタンのものと指摘しています。そして歴史から、この宗教が世界中を駆け巡って、あらゆる偶像礼拝の素となり、神話のテーマとなったことがわかります。言語の違いから神々の名前は国によって異なりますが、素はこの宗教から出ています。 ニムロデは自分の名を有名にし、彼の弟子たちは言うまでもなく、現在に至ってまでも彼は崇拝され栄誉を受けています。(イエスがご自分を兄弟に明らかにされる時までは、彼への崇拝は続くでしょう。)それもニムロドとは別の名前で崇拝され、最初に彼が崇拝された場所とは違う神殿で崇

地球上のサタンの御座 33

の中で激怒している者が心の光を求めるようになるために、主はまず彼を打って目が見えなくさせた。それならば強制的にでも、失われた子たちを教会に戻すことが何で悪いことがあろう。主ご自身が、「大通りにも脇道にも行って、彼らを連れて来なさい」と言われたではないか。もし教会が、神の約束によって受けた力を用いて、大通りや脇道で見つけ出した人々を(異教徒や異端信仰者)強制的に教会に来させるなら、強制されたと彼らに非難をさせないようにしよう。」

流血への飢え渇きがたちまち広まっていきました。スペインの偽のぶどうは、マクシミアヌス帝を味方につけて、みことばを守り、しるしと不思議が伴う活動をしていた真の信者に攻撃を仕掛けました。プリスキリア派の人たちはイタカス司教(385)によってトレヴェス (Treves) に連れて行かれました。彼は彼らを魔術と不道徳を行う者と断定して責め、多くのものが処刑されました。これに対してツールのマルティンやミラノのアンブローズ (Ambrose) が迫害をやめるように嘆願しましたが、徒労に終わりました。迫害が長引くに連れ、この二人の司教はヒダトゥス (Hydatus) 司教やその仲間との交際を一切断ちました。おかしなことに、トレヴェスの教会会議は殺人を承認しました。

ようです。クリスチャンという呼び名が最初は迫害をもたらしましたが、今や迫害者の呼び名に変わりました。まさにこの時代、ヒッポの司教アウグスティヌス(354-430) が登場しました。教会は、必要なら強制的にでも、子どもたちを囲いの中に戻さなければいけないと彼は教え、また、異教徒や背教者を殺すことは神のことばと一致すると教えました。彼はドナトゥス派(カトリックから異端とされた派)と論争し、以下の書簡を残しました。「教えを受けて神を拝むようになる方が、刑罰や痛みの恐れから神を拝むようになりより良い。しかし、前者の方が良い人間を作り出すからといって、屈しない者を放っておくことはできない。最初に恐怖や痛みによって服従させる方が、有利な点が多くある(このことを実証できるし、毎日実行して確信している)。服従させた後で、教えれば、感化できるかもしれないし、すでに教えられたことに最後まで従うかもしれないし、口先だけで・・・・愛によって正しく指導された者の方が良いには違いないが、畏れによって矯正された者の方が圧倒的に数が多い。

ペトロや他の使徒たちは、主のことばだけで召命されたが、パウロの場面は、主の声かけだけでなく力づくで地面に押し倒されたのではなかったか。主は召し出すために強制手段も用いられるであろう。異教の闇

められています。

聖書から他国の歴史を詳しく知ることはできないので、どうしてペルガモがバビロンのサタン信仰の座となったのか、異教の古文書から調べなくてはなりません。主な資料はエジプトと古代ギリシャの記録です。エジプトが科学と数学をカルデア人から習得し、ギリシャはエジプトからその学問を学んだからです。

科学を教えたのは祭司でしたから、その科学には宗教的なものが含まれていました。バビロンの宗教が、その二大国に入り込んでいった様子が少し見えてきたでしょう。ある国が別の国に戦争で勝つと、征服者の宗教が次第に被征服者の宗教にもなっていくものです。ギリシャの星座の知識は、バビロンのものと全く同じですし、エジプトがギリシャに多神教の知識をもたらしたと記された古代エジプトの記録が発見されています。このようにしてバビロンの秘義は国から国へと伝わっていき、やがてローマ、中国、インド、そして南北アメリカ大陸においてまでも、基本的に同じ秘密の儀式が行なわるようになりました。

地上の最初の人々が信じていたのはバビロンの宗教ではないことを、聖書も他の古代史も指摘してい

32 www.messagehub.info

ようです。クリスチャンという呼び名が最初は迫害をもたらしましたが、今や迫害者の呼び名に変わりました。まさにこの時代、ヒッポの司教アウグスティヌス(354-430) が登場しました。教会は、必要なら強制的にでも、子どもたちを囲いの中に戻さなければいけないと彼は教え、また、異教徒や背教者を殺すことは神のことばと一致すると教えました。彼はドナトゥス派(カトリックから異端とされた派)と論争し、以下の書簡を残しました。「教えを受けて神を拝むようになる方が、刑罰や痛みの恐れから神を拝むようになりより良い。しかし、前者の方が良い人間を作り出すからといって、屈しない者を放っておくことはできない。最初に恐怖や痛みによって服従させる方が、有利な点が多くある(このことを実証できるし、毎日実行して確信している)。服従させた後で、教えれば、感化できるかもしれないし、すでに教えられたことに最後まで従うかもしれないし、口先だけで・・・・愛によって正しく指導された者の方が良いには違いないが、畏れによって矯正された者の方が圧倒的に数が多い。

ペトロや他の使徒たちは、主のことばだけで召命されたが、パウロの場面は、主の声かけだけでなく力づくで地面に押し倒されたのではなかったか。主は召し出すために強制手段も用いられるであろう。異教の闇

地球上のサタンの御座 5

められています。

聖書から他国の歴史を詳しく知ることはできないので、どうしてペルガモがバビロンのサタン信仰の座となったのか、異教の古文書から調べなくてはなりません。主な資料はエジプトと古代ギリシャの記録です。エジプトが科学と数学をカルデア人から習得し、ギリシャはエジプトからその学問を学んだからです。

科学を教えたのは祭司でしたから、その科学には宗教的なものが含まれていました。バビロンの宗教が、その二大国に入り込んでいった様子が少し見えてきたでしょう。ある国が別の国に戦争で勝つと、征服者の宗教が次第に被征服者の宗教にもなっていくものです。ギリシャの星座の知識は、バビロンのものと全く同じですし、エジプトがギリシャに多神教の知識をもたらしたと記された古代エジプトの記録が発見されています。このようにしてバビロンの秘義は国から国へと伝わっていき、やがてローマ、中国、インド、そして南北アメリカ大陸においてまでも、基本的に同じ秘密の儀式が行なわるようになりました。

地上の最初の人々が信じていたのはバビロンの宗教ではないことを、聖書も他の古代史も指摘してい

ます。バビロンの宗教は起源の信仰から最初に逸脱して出来上がったものであって、それ自体は起源ではありません。ウィルキンソンやマレットら歴史家が、古代の文書から最終的に達した結論は、太古には地上すべての人々が、唯一の神を信じていたということです。その神は至高で永遠で不可視で、その口から発することばによってすべてのものが存在して、その性質は愛と善と義でした。しかしサタンは可能な限りすべてを堕落させようと試みます。人の心も思考も堕落させて真理から離れるようにさせます。サタンは神の使いとか被造物としてではなく、神として自分が崇拝されるようになるために、人々の礼拝を神から引き離し、その対象を自分に向け、自分が高く崇められるよう試みてきました。確かにサタンは世界中に彼の宗教を広めることによって、その欲望を満たすことができました。そのことを神も認めており、ローマ書に記されています。「彼らは神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、その思いは虚しくなり、その無知な心は暗くなり、堕落した宗教を信じるようになり、果ては造り主の代わりに造られた物を拝むようになりました。」

サタンは神の被造物(朝の子)であることを留意してください。ですから、かつては絶対的真理が人類に普及しており、みなその真理を大切にしていたのが、のち

す。確かに頭(ローマ)は傷を負いましたが、死にはしなかったのです。(ウエスト訳の黙示録 13:3「首に一撃をくらい、彼の頭の一つが致命傷を負ったようにみえた。その後致命的一撃の傷が治った。すると世界中が驚愕して野生の獣に従った。」)

普通、ローマというと、イタリアという国を思い浮かべます。しかしローマの中では、はっきりと境界線が敷かれていて、教皇が支配する地域が存在します。そこは文字どおり国の中の国で、大使もいれば、各国の大使も受け入れています。偽りのキリスト教ローマ法王庁(神への冒涜甚だしいことに、永遠の都と呼ばれています)。かつて鉄の力だけで治めていた異教徒のローマ帝国時代よりさらに力を増して、宗教によって世界を支配しています。コンスタンティヌス帝が、権力によって教会と国家を結びつけ、統合を後押ししたとき、ローマは新しいいのちを引き受けました。異教徒のローマを奮い立たせた同じ霊が、今、偽のキリスト教ローマを鼓舞しています。それは第四の帝国が消滅していない(ただ外面的に変わっただけで)ことからおわかりいただけると思います。

ニケア会議において、ローマの政治力が教会に影響を及ぼして以来、第一教会の勢いは止まらなくなった

6 www.messagehub.info

ます。バビロンの宗教は起源の信仰から最初に逸脱して出来上がったものであって、それ自体は起源ではありません。ウィルキンソンやマレットら歴史家が、古代の文書から最終的に達した結論は、太古には地上すべての人々が、唯一の神を信じていたということです。その神は至高で永遠で不可視で、その口から発することばによってすべてのものが存在して、その性質は愛と善と義でした。しかしサタンは可能な限りすべてを堕落させようと試みます。人の心も思考も堕落させて真理から離れるようにさせます。サタンは神の使いとか被造物としてではなく、神として自分が崇拝されるようになるために、人々の礼拝を神から引き離し、その対象を自分に向け、自分が高く崇められるよう試みてきました。確かにサタンは世界中に彼の宗教を広めることによって、その欲望を満たすことができました。そのことを神も認めており、ローマ書に記されています。「彼らは神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、その思いは虚しくなり、その無知な心は暗くなり、堕落した宗教を信じるようになり、果ては造り主の代わりに造られた物を拝むようになりました。」

サタンは神の被造物(朝の子)であることを留意してください。ですから、かつては絶対的真理が人類に普及しており、みなその真理を大切にしていたのが、のち

地球上のサタンの御座 31

す。確かに頭(ローマ)は傷を負いましたが、死にはしなかったのです。(ウエスト訳の黙示録 13:3「首に一撃をくらい、彼の頭の一つが致命傷を負ったようにみえた。その後致命的一撃の傷が治った。すると世界中が驚愕して野生の獣に従った。」)

普通、ローマというと、イタリアという国を思い浮かべます。しかしローマの中では、はっきりと境界線が敷かれていて、教皇が支配する地域が存在します。そこは文字どおり国の中の国で、大使もいれば、各国の大使も受け入れています。偽りのキリスト教ローマ法王庁(神への冒涜甚だしいことに、永遠の都と呼ばれています)。かつて鉄の力だけで治めていた異教徒のローマ帝国時代よりさらに力を増して、宗教によって世界を支配しています。コンスタンティヌス帝が、権力によって教会と国家を結びつけ、統合を後押ししたとき、ローマは新しいいのちを引き受けました。異教徒のローマを奮い立たせた同じ霊が、今、偽のキリスト教ローマを鼓舞しています。それは第四の帝国が消滅していない(ただ外面的に変わっただけで)ことからおわかりいただけると思います。

ニケア会議において、ローマの政治力が教会に影響を及ぼして以来、第一教会の勢いは止まらなくなった

時代の王は世界の軍事指導者たちの中で最も賢く、従って青銅の腹とももに象徴されたのは適切でした。先代の二つの帝国ほどの栄華がなかったからです。最後に起こるのがローマ帝国で、すねと足に象徴されています。これまでの王国が単体の鉱物に象徴されていたのに対し(金、銀、青銅)、最後の帝国は、すねは鉄のみですが、足は鉄と粘土の混じったものでした。鉱物と土とでは異質同士ですから、不安定で強度的に問題がある状態でした。しかし驚くことに、このように奇妙な「混合状態」にある最後の帝国(ローマ)が、イエスの再臨まで存続することになるのです。

鉄のローマ帝国(鉄は力と、敵に対する強大な破壊力を象徴する)は二つの部分に別れることになっていました。そして文字通りその国は東と西に別れました。そしてどちらも強大な力を誇り、行く手を阻むものを押しつぶしていく国でした。

すべての帝国の栄華と権力は衰退していくものですが、この帝国も例外ではありませんでした。かくしてローマは滅びました。異教徒のローマ帝国はもはや鉄ではなくなり、砕け落ちました。ローマは致命傷を負い、もはや支配者ではありませんでした。ローマは終わったと、世界中がそう思ったのです。しかし違っていたので

のある日ひとつの巨大なグループが神に背を向け、邪悪な儀式を世界中に広めたと結論できます。セム族は不変の真理を守っていたため、悪魔の嘘を信じて真理に背を向けたハム族の激しい攻撃のまととなったことを歴史が伝えています。これに関して議論する時間はありませんが、世界には二つの宗教しかなかったこと、二つのうち邪悪な宗教の方が世界中に広まったことを簡単に説明しました。

一神教はバビロンで多神教に変化しました。悪魔の嘘と秘義が、この町で神の真理と神秘に敵対した結果、サタンは事実上この世の神となり、騙された人々は彼を真の主であると信じ込んで礼拝するようになりました。

サタンが広めた多神教は、三位一体の教えから始まりました。「三つの神格をもつ一人の神」という観念は、太古の昔からが存在していたのです。現代の神学者がなぜこのことを問題視しないのか不思議でなりません。結局彼らも先祖と同様、サタンによって真実が覆われていて、神は三つの神格から成っていると信じ込んでいるからでしょう。いったい聖書のどこに三位一体を裏付けることが書かれているか教えてほしいものです。ハムの子孫たちがサタン礼拝に陥って、三体神の基

30 www.messagehub.info

時代の王は世界の軍事指導者たちの中で最も賢く、従って青銅の腹とももに象徴されたのは適切でした。先代の二つの帝国ほどの栄華がなかったからです。最後に起こるのがローマ帝国で、すねと足に象徴されています。これまでの王国が単体の鉱物に象徴されていたのに対し(金、銀、青銅)、最後の帝国は、すねは鉄のみですが、足は鉄と粘土の混じったものでした。鉱物と土とでは異質同士ですから、不安定で強度的に問題がある状態でした。しかし驚くことに、このように奇妙な「混合状態」にある最後の帝国(ローマ)が、イエスの再臨まで存続することになるのです。

鉄のローマ帝国(鉄は力と、敵に対する強大な破壊力を象徴する)は二つの部分に別れることになっていました。そして文字通りその国は東と西に別れました。そしてどちらも強大な力を誇り、行く手を阻むものを押しつぶしていく国でした。

すべての帝国の栄華と権力は衰退していくものですが、この帝国も例外ではありませんでした。かくしてローマは滅びました。異教徒のローマ帝国はもはや鉄ではなくなり、砕け落ちました。ローマは致命傷を負い、もはや支配者ではありませんでした。ローマは終わったと、世界中がそう思ったのです。しかし違っていたので

地球上のサタンの御座 7

のある日ひとつの巨大なグループが神に背を向け、邪悪な儀式を世界中に広めたと結論できます。セム族は不変の真理を守っていたため、悪魔の嘘を信じて真理に背を向けたハム族の激しい攻撃のまととなったことを歴史が伝えています。これに関して議論する時間はありませんが、世界には二つの宗教しかなかったこと、二つのうち邪悪な宗教の方が世界中に広まったことを簡単に説明しました。

一神教はバビロンで多神教に変化しました。悪魔の嘘と秘義が、この町で神の真理と神秘に敵対した結果、サタンは事実上この世の神となり、騙された人々は彼を真の主であると信じ込んで礼拝するようになりました。

サタンが広めた多神教は、三位一体の教えから始まりました。「三つの神格をもつ一人の神」という観念は、太古の昔からが存在していたのです。現代の神学者がなぜこのことを問題視しないのか不思議でなりません。結局彼らも先祖と同様、サタンによって真実が覆われていて、神は三つの神格から成っていると信じ込んでいるからでしょう。いったい聖書のどこに三位一体を裏付けることが書かれているか教えてほしいものです。ハムの子孫たちがサタン礼拝に陥って、三体神の基

本概念に巻き込まれていったのと対照的に、セムの子孫がそのような教えに騙されたり、そのような儀式に関わったりした形跡がまったくないのは不思議ではありませんか。もし神に三つの神格があるなら、ヘブライ人が「聞け。イスラエルよ、あなたの神、主は唯一の神」を信じていることが不思議ではないでしょうか。セムの子孫であるアブラハムは、ひとりの神(主)と二人の御使いを見ました。(創世記 18)

では、三位一体はどのようにして表されていたでしょうか。それは正三角形として表現されていましたし、こんにちのローマでもそのように表現しています。不思議なことにヘブライ人にはそのような概念がありません。では誰が正しいのでしょう、ヘブライ人ですか、バビロン人ですか? アジアにおいては、三神が一つであるという多神教の考えは、三つの頭と一つの体をもつ神としてイメージされています。三つの知的頭脳をもつ神です。インドでは、ひとりの神に三つの形があると心の中で表現していました。それは現代の神学になっています。日本では、三つの頭を持つ仏陀がいるそうです。

しかし最も一般的な三位一体神の概念は、1. 老人の頭が父なる神を表す。2. 一つの円が種の謎を意味し、そこから発展して御子を意味する。3. 羽と尾を持

の国を起こされます。その国は永遠に滅ぼされることがなく、その国は他の国に渡されず、帰ってこれらの国々をことごとく打ち砕いて、絶滅してしまいます。しかし、この国は永遠に立ち続けます。あなたがご覧になったとおり、一つの石が人手によらずに山から切り出され、その石が鉄と青銅と粘土と銀と金を打ち砕いたのは、大いなる神が、これから後に起こることを王に知らされたのです。その夢は正夢で、その解き明かしも確かです。」

(ダニエル 2:31-45)

ダニエルの時代から、イエスがダビデの子として来て統治するに至るまでに、地上に必ず起こる未来の出来事の的確な報告、未成就の歴史が預言され、それが解き明かされました。「異邦人の時代」と呼ばれるものです。四つに歴史的区分され、それぞれの帝国支配は、バビロン、メディア・ペルシャ、ギリシャ、ローマです。最も巨大で専制支配をしたのがバビロンで金の頭として象徴されました。次に栄光に輝くのがメディア・ペルシャでしたが、歴史が示すようにバビロンほどの輝きはなく、従って銀の胸と腕に象徴されました。続くギリシャ

8 www.messagehub.info

本概念に巻き込まれていったのと対照的に、セムの子孫がそのような教えに騙されたり、そのような儀式に関わったりした形跡がまったくないのは不思議ではありませんか。もし神に三つの神格があるなら、ヘブライ人が「聞け。イスラエルよ、あなたの神、主は唯一の神」を信じていることが不思議ではないでしょうか。セムの子孫であるアブラハムは、ひとりの神(主)と二人の御使いを見ました。(創世記 18)

では、三位一体はどのようにして表されていたでしょうか。それは正三角形として表現されていましたし、こんにちのローマでもそのように表現しています。不思議なことにヘブライ人にはそのような概念がありません。では誰が正しいのでしょう、ヘブライ人ですか、バビロン人ですか? アジアにおいては、三神が一つであるという多神教の考えは、三つの頭と一つの体をもつ神としてイメージされています。三つの知的頭脳をもつ神です。インドでは、ひとりの神に三つの形があると心の中で表現していました。それは現代の神学になっています。日本では、三つの頭を持つ仏陀がいるそうです。

しかし最も一般的な三位一体神の概念は、1. 老人の頭が父なる神を表す。2. 一つの円が種の謎を意味し、そこから発展して御子を意味する。3. 羽と尾を持

地球上のサタンの御座 29

の国を起こされます。その国は永遠に滅ぼされることがなく、その国は他の国に渡されず、帰ってこれらの国々をことごとく打ち砕いて、絶滅してしまいます。しかし、この国は永遠に立ち続けます。あなたがご覧になったとおり、一つの石が人手によらずに山から切り出され、その石が鉄と青銅と粘土と銀と金を打ち砕いたのは、大いなる神が、これから後に起こることを王に知らされたのです。その夢は正夢で、その解き明かしも確かです。」

(ダニエル 2:31-45)

ダニエルの時代から、イエスがダビデの子として来て統治するに至るまでに、地上に必ず起こる未来の出来事の的確な報告、未成就の歴史が預言され、それが解き明かされました。「異邦人の時代」と呼ばれるものです。四つに歴史的区分され、それぞれの帝国支配は、バビロン、メディア・ペルシャ、ギリシャ、ローマです。最も巨大で専制支配をしたのがバビロンで金の頭として象徴されました。次に栄光に輝くのがメディア・ペルシャでしたが、歴史が示すようにバビロンほどの輝きはなく、従って銀の胸と腕に象徴されました。続くギリシャ

第四の国は鉄のように強い国です。鉄はすべてのものを打ち砕いて粉々にするからです。その国は鉄が打ち砕くように、先の国々を粉々に打ち砕いてしまいます。

あなたがご覧になった足と足の指は、その一部が陶器師の粘土、一部が鉄でしたが、それは分裂した国のことです。その国には鉄の強さがあるでしょうが、あなたがご覧になったように、その鉄はどろどろの粘土と混じり合っているです。その足の指が一部は鉄、一部は粘土であったように、この国は一部が強く、一部はもろいでしょう。

鉄とどろどろの粘土が混じり合っているのをあなたがご覧になったように、それらは人間の種によって互いに混じり合うでしょう。しかし鉄が粘土と混じり合わないように、それらが互いに団結することはありません。

この王たちの時代に、天の神は一つ

つ鳥(はと)。これが父と子と聖霊の教義、三つの神格からなる神、本当の三位一体ということでした。同じことをローマで見ることができます。さて、悪魔と悪魔の崇拝者の方が、信仰の父アブラハムとその子孫よりもよく真理を理解しているというのは不思議ではないでしょうか。サタン崇拝者の方が、神の子よりも神を知っているというのは不思議ではないでしょうか。しかし、これが現代の神学者が三位一体について語るときに使う手法です。今からずっと、このひとつのことを覚えていてください。これらの記録は事実であり、事実とは、サタンが嘘つきであり、嘘の生みの親であり、彼が光を装って現れても、それが嘘でしかないことです。サタンは殺人者です。サタンによる三位一体の教義がこれまで何百万もの人を殺してきたし、これからも殺していくことでしょう、イエスが再臨されるまでは。

歴史をふり返ると、父と子と聖霊の概念が変わって現在の形になるまでにそう時間がかからなかったようです。サタンは慎重に、少しずつ信者を真理から引き離していきました。そして現在はこのような形に発展しました。1. 永遠の父。2. 神の化身である人間の母。(考えさせられませんか?)3. 神の子、託身の結実。(女の子孫)

しかし悪魔はまだ満足しません。まだ間接的にし

28 www.messagehub.info

第四の国は鉄のように強い国です。鉄はすべてのものを打ち砕いて粉々にするからです。その国は鉄が打ち砕くように、先の国々を粉々に打ち砕いてしまいます。

あなたがご覧になった足と足の指は、その一部が陶器師の粘土、一部が鉄でしたが、それは分裂した国のことです。その国には鉄の強さがあるでしょうが、あなたがご覧になったように、その鉄はどろどろの粘土と混じり合っているです。その足の指が一部は鉄、一部は粘土であったように、この国は一部が強く、一部はもろいでしょう。

鉄とどろどろの粘土が混じり合っているのをあなたがご覧になったように、それらは人間の種によって互いに混じり合うでしょう。しかし鉄が粘土と混じり合わないように、それらが互いに団結することはありません。

この王たちの時代に、天の神は一つ

地球上のサタンの御座 9

つ鳥(はと)。これが父と子と聖霊の教義、三つの神格からなる神、本当の三位一体ということでした。同じことをローマで見ることができます。さて、悪魔と悪魔の崇拝者の方が、信仰の父アブラハムとその子孫よりもよく真理を理解しているというのは不思議ではないでしょうか。サタン崇拝者の方が、神の子よりも神を知っているというのは不思議ではないでしょうか。しかし、これが現代の神学者が三位一体について語るときに使う手法です。今からずっと、このひとつのことを覚えていてください。これらの記録は事実であり、事実とは、サタンが嘘つきであり、嘘の生みの親であり、彼が光を装って現れても、それが嘘でしかないことです。サタンは殺人者です。サタンによる三位一体の教義がこれまで何百万もの人を殺してきたし、これからも殺していくことでしょう、イエスが再臨されるまでは。

歴史をふり返ると、父と子と聖霊の概念が変わって現在の形になるまでにそう時間がかからなかったようです。サタンは慎重に、少しずつ信者を真理から引き離していきました。そして現在はこのような形に発展しました。1. 永遠の父。2. 神の化身である人間の母。(考えさせられませんか?)3. 神の子、託身の結実。(女の子孫)

しかし悪魔はまだ満足しません。まだ間接的にし

か、自分が崇拝されていないからです。そこで彼はまた少し、人々を真理から引き離します。秘義を通して人々に、偉大な不可視の父なる神は人間に関心を示してはおらず、人間のすることに沈黙していると囁きます。そうすることによって、沈黙のうちに悪魔も崇拝の恩恵にあずかることができるようになるからです。実際それは、悪魔の存在に目をつむることを意味します。この教えも世界中に広まり、今インドでは、偉大な創造主なる神、沈黙の神に捧げられた寺院はほとんどありません。

創造主である父をあがめる必要がないのなら、崇拝の対象は当然ながら「母と子」に向かいました。エジプトでの母と子はイシスとオシリスでした。インドでは、イシとイスワラ(なんと似通った名前でしょう)。アジアではシベレとデオイウス。ローマとギリシャはエジプトの神話を継承し、中国も同様。ローマ・カトリックの宣教師が中国に入って、聖母子像を発見したとき、どんなにびっくりしたことでしょう。赤子の像の頭からは光線が発していました。顔の形の違いさえなければ、その像とバチカンの像を取り替えても構わなかったことでしょう。

それでは、母子像の起源をたどることにしましょう。起源であるバビロンの神の母はセミラミスで、東方ではレアと呼ばれていました。彼女の腕に抱かれた子

の鉄と粘土の足を打ち、これを打ち砕きました。そのとき、鉄も粘土も青銅も銀も金もみな共に砕けて、夏の麦打ち場のもみがらのようになり、風がそれを吹き払って、あとかたもなくなりました。そして、その像を打った石は大きな山となって全土に満ちました。

これがその夢でした。私たちはその解き明かしを王さまの前に申し上げましょう。

王の王である王さま。天の神はあなたに国と権威と力と光栄とを賜い、また人の子ら、野の獣、空の鳥がどこに住んでいても、これをことごとく治めるようにあなたの手に与えられました。

あなたはあの金の頭です。あなたの後に、あなたより劣るもう一つの国が起こります。

次に青銅の第三の国が起こって、全土を治めるようになります。

10 www.messagehub.info

か、自分が崇拝されていないからです。そこで彼はまた少し、人々を真理から引き離します。秘義を通して人々に、偉大な不可視の父なる神は人間に関心を示してはおらず、人間のすることに沈黙していると囁きます。そうすることによって、沈黙のうちに悪魔も崇拝の恩恵にあずかることができるようになるからです。実際それは、悪魔の存在に目をつむることを意味します。この教えも世界中に広まり、今インドでは、偉大な創造主なる神、沈黙の神に捧げられた寺院はほとんどありません。

創造主である父をあがめる必要がないのなら、崇拝の対象は当然ながら「母と子」に向かいました。エジプトでの母と子はイシスとオシリスでした。インドでは、イシとイスワラ(なんと似通った名前でしょう)。アジアではシベレとデオイウス。ローマとギリシャはエジプトの神話を継承し、中国も同様。ローマ・カトリックの宣教師が中国に入って、聖母子像を発見したとき、どんなにびっくりしたことでしょう。赤子の像の頭からは光線が発していました。顔の形の違いさえなければ、その像とバチカンの像を取り替えても構わなかったことでしょう。

それでは、母子像の起源をたどることにしましょう。起源であるバビロンの神の母はセミラミスで、東方ではレアと呼ばれていました。彼女の腕に抱かれた子

地球上のサタンの御座 27

の鉄と粘土の足を打ち、これを打ち砕きました。そのとき、鉄も粘土も青銅も銀も金もみな共に砕けて、夏の麦打ち場のもみがらのようになり、風がそれを吹き払って、あとかたもなくなりました。そして、その像を打った石は大きな山となって全土に満ちました。

これがその夢でした。私たちはその解き明かしを王さまの前に申し上げましょう。

王の王である王さま。天の神はあなたに国と権威と力と光栄とを賜い、また人の子ら、野の獣、空の鳥がどこに住んでいても、これをことごとく治めるようにあなたの手に与えられました。

あなたはあの金の頭です。あなたの後に、あなたより劣るもう一つの国が起こります。

次に青銅の第三の国が起こって、全土を治めるようになります。

このことを自分勝手に解釈したと思われないために、的確に聖書真理を示している箇所があるので、ここに記します。

「王さま、あなたは寝床で、この後、何が起こるのかと思い巡らされましたが、秘密をあらわされる方が、のちに起こることをあなたにお示しになったのです。この秘密が私にあらわされたのは、ほかのどの人よりも私に知恵があるからではなく、その解き証しが王に知らされることによって、あなたの心の思いをあなたがお知りになるためです。

王さま。あなたは一つの大きな像をご覧になりました。見よ。その像は巨大で、その輝きは常ならず、それがあなたの前に立っていました。その姿は恐ろしいものでした。その像は、頭が純金、胸と両腕とは銀、腹とももとは青銅、すねは鉄、足は一部が鉄、一部が粘土でした。

あなたが見ておられるうちに、一つの石が人手によらずに切り出され、その像

は、赤子であるのに背が高く力持ちでハンサムで、特に女性の心を魅いたと記されています。彼はタンムズと呼ばれていたと、エゼキエル 8:14 は記しており、古典文学にはバッカスという名で登場します。バビロンでは彼はニヌスでした。なぜ、彼は母に抱かれた赤子であるのに、偉大な勇士として記されていのでしょう。その理由は、彼が「夫、兼息子」として知られていたからです。彼の称号の一つは、「母の夫」でした。インドでこの二人は、イスワラとイシとして知られ、イシ(夫)は赤子として自分の妻の胸に抱かれています。

このニヌスが聖書のニムロデと同一人物であることは、歴史と創世記の記述を比較することでわかります。ポンペイウスは、「アッシリアの王、ニヌスは、自らの征服欲で、古代の平穏な生活を変えてしまった。彼は近隣に戦いを仕掛けた最初の人であった。彼はアッシリアからリビアまですべての国を征服した。これらの国は戦い方を知らなかったからである。」と記し、ディオドルスは、「ニヌスは歴史上最も古いアッシリアの王であった。好戦的な気質で、多くの若者に厳しい訓練をさせて戦いの仕方を教えた。バビロンという都市ができる前から、彼はバビロン地域を支配していた。」と記しています。ニヌスがバビロンで強大になり、バベルの塔を建て、アッシリアを占領し、その王に君臨し、それから広大な

26 www.messagehub.info

このことを自分勝手に解釈したと思われないために、的確に聖書真理を示している箇所があるので、ここに記します。

「王さま、あなたは寝床で、この後、何が起こるのかと思い巡らされましたが、秘密をあらわされる方が、のちに起こることをあなたにお示しになったのです。この秘密が私にあらわされたのは、ほかのどの人よりも私に知恵があるからではなく、その解き証しが王に知らされることによって、あなたの心の思いをあなたがお知りになるためです。

王さま。あなたは一つの大きな像をご覧になりました。見よ。その像は巨大で、その輝きは常ならず、それがあなたの前に立っていました。その姿は恐ろしいものでした。その像は、頭が純金、胸と両腕とは銀、腹とももとは青銅、すねは鉄、足は一部が鉄、一部が粘土でした。

あなたが見ておられるうちに、一つの石が人手によらずに切り出され、その像

地球上のサタンの御座 11

は、赤子であるのに背が高く力持ちでハンサムで、特に女性の心を魅いたと記されています。彼はタンムズと呼ばれていたと、エゼキエル 8:14 は記しており、古典文学にはバッカスという名で登場します。バビロンでは彼はニヌスでした。なぜ、彼は母に抱かれた赤子であるのに、偉大な勇士として記されていのでしょう。その理由は、彼が「夫、兼息子」として知られていたからです。彼の称号の一つは、「母の夫」でした。インドでこの二人は、イスワラとイシとして知られ、イシ(夫)は赤子として自分の妻の胸に抱かれています。

このニヌスが聖書のニムロデと同一人物であることは、歴史と創世記の記述を比較することでわかります。ポンペイウスは、「アッシリアの王、ニヌスは、自らの征服欲で、古代の平穏な生活を変えてしまった。彼は近隣に戦いを仕掛けた最初の人であった。彼はアッシリアからリビアまですべての国を征服した。これらの国は戦い方を知らなかったからである。」と記し、ディオドルスは、「ニヌスは歴史上最も古いアッシリアの王であった。好戦的な気質で、多くの若者に厳しい訓練をさせて戦いの仕方を教えた。バビロンという都市ができる前から、彼はバビロン地域を支配していた。」と記しています。ニヌスがバビロンで強大になり、バベルの塔を建て、アッシリアを占領し、その王に君臨し、それから広大な

領地をむさぼっていったことがわかります。ポンペイウスが言うように、彼は、平穏な生活を送り、戦い方を知らない人々を次々と倒していったのです。

創世記 10 章でニムロドの王国について記しています。

> *「彼の王国の初めは、バベル、エレク、アカデ、カルネであって、シンアルの地にあった。その地から彼は、アシュルに進出し、ニネベ、レホボテ、イル、ケラフ、・・・・」*

ここでアシュルという言葉を名詞に訳していますが、本当は動詞で、カルデア語で「強くする」という意味です。ですから、強くなったニムロデが、(過酷な狩猟や訓練を通して鍛え上げた世界初の軍隊を持つ王国を、彼は築いた。)強力な軍隊を率いてシンアルの地を越え、国々を征服して町を築いていったのです。その町の一つにニネベがあります。彼の名にちなんで名付けられた都市です。この町の廃墟は、今でもニムラウドと呼ばれています。

ニヌスが判明したので、今度は彼の父が誰であったかを調べましょう。歴史によれば、それはバビロンの

合する(結婚する)」という意味です。そのとおり、国家と教会は結婚しました。政治と宗教が結合したのです。この結合から生まれてきた子たちは、類い稀なほど手に負えない雑種ばかりでした。彼らのうちに真理はありません。その代わりにカインの(雑種の元祖)あらゆる悪を持ち合わせています。

この時代に、国家と教会が結びついただけでなく、バビロン宗教が正式に第一教会とつながりました。これによりサタンはキリストの御名の利用権を手に入れ、神として崇められる地位を手に入れました。連邦の援助を受けて、教会は美しい建物を手に入れることができました。そこには白い大理石の祭壇があり、天国に行った聖人たちの像が並んでいました。

まさにこの時代、黙示録 13:3 で記された、傷を負って死んだ(異教ローマ帝国)と思われた「獣」が息を吹き返し「神聖ローマ帝国」となったのです。物質国家としてのローマは枯渇していき、間も無く完全に消滅するに至りましたが、ここではそれは問題になりません。なぜなら、今度は宗教帝国としてローマは世界の頂点に立っているからです。外部からはその様子をうかがい知ることができませんが、内部で世界を牛耳っているのです。

12 www.messagehub.info

領地をむさぼっていったことがわかります。ポンペイウスが言うように、彼は、平穏な生活を送り、戦い方を知らない人々を次々と倒していったのです。

創世記 10 章でニムロドの王国について記しています。

> *「彼の王国の初めは、バベル、エレク、アカデ、カルネであって、シンアルの地にあった。その地から彼は、アシュルに進出し、ニネベ、レホボテ、イル、ケラフ、・・・・」*

ここでアシュルという言葉を名詞に訳していますが、本当は動詞で、カルデア語で「強くする」という意味です。ですから、強くなったニムロデが、(過酷な狩猟や訓練を通して鍛え上げた世界初の軍隊を持つ王国を、彼は築いた。)強力な軍隊を率いてシンアルの地を越え、国々を征服して町を築いていったのです。その町の一つにニネベがあります。彼の名にちなんで名付けられた都市です。この町の廃墟は、今でもニムラウドと呼ばれています。

ニヌスが判明したので、今度は彼の父が誰であったかを調べましょう。歴史によれば、それはバビロンの

地球上のサタンの御座 25

合する(結婚する)」という意味です。そのとおり、国家と教会は結婚しました。政治と宗教が結合したのです。この結合から生まれてきた子たちは、類い稀なほど手に負えない雑種ばかりでした。彼らのうちに真理はありません。その代わりにカインの(雑種の元祖)あらゆる悪を持ち合わせています。

この時代に、国家と教会が結びついただけでなく、バビロン宗教が正式に第一教会とつながりました。これによりサタンはキリストの御名の利用権を手に入れ、神として崇められる地位を手に入れました。連邦の援助を受けて、教会は美しい建物を手に入れることができました。そこには白い大理石の祭壇があり、天国に行った聖人たちの像が並んでいました。

まさにこの時代、黙示録 13:3 で記された、傷を負って死んだ(異教ローマ帝国)と思われた「獣」が息を吹き返し「神聖ローマ帝国」となったのです。物質国家としてのローマは枯渇していき、間も無く完全に消滅するに至りましたが、ここではそれは問題になりません。なぜなら、今度は宗教帝国としてローマは世界の頂点に立っているからです。外部からはその様子をうかがい知ることができませんが、内部で世界を牛耳っているのです。

いう説を教えていました。一方、西方教会は反対の見解を持っていて、イエスは神の性質を持っていて父と対等であると信じていました。このようにイエスの神性に関する対立や、異教の儀式の混入などの問題が起こっていたことから、皇帝は 325 年にニケアで宗教会議を開くことにし、すべてのグループを召集して互いの考えの違いについて忌憚なく話し合いをさせました。皇帝はニケア会議で意見の集約をして共通の理解を引き出し、教会をひとつにしようと試みたのです。コンスタンティヌス帝をとおして始まったこの運動が、「世界宗教会議」という名で今日も生き続けているのは奇妙ではないでしょうか。当時コンスタンティヌス帝が、真の意味で達成できなかった試みが、こんにちエキュメニカル運動(教会一致運動)をとおして達成されようとしています。

国家が教会に干渉するのは愚かな行為です。この世はみことばに基づく真理を理解しませんし、教会のあり方もわかっていないからです。会議では、アリウス説の誤謬が決定されましたが、その 2 年後に皇帝が決定を覆したので、何年もの間、人々は間違った教えを信じさせられていました。

ところで教会と国家の結合は、主によって前もって知られていました。ペルガモという名前は、「密接に融

創始者ベルです。(ベルが町の基礎を築き、この活動すべてのきっかけを作ったと言えるでしょう。しかしその息子ニヌスが町を完成し、最初の王になりました。) ところが聖書によるとニムロデの父はクシュです。「クシュはニムロデを生んだ。」(創世記 10:8) それだけでなく、クシュを生んだのはハムです。エジプトの世界では、ベルはヘルメスと呼ばれました。意味は「ハムの子」です。歴史によれば、ヘルメスは偶像礼拝の大預言者で、異神たちの通訳をしました。彼はマーキュリーとも呼ばれていました。(使徒言行録 14:11-12 参照)

ベルとも、ヘルメスとも、マーキュリーとも呼ばれる異神について、ハイジヌスは、「長い年月人々は神(ローマ以前のことなので、ここでいう神は、ジュピターではなく、ヘブライのイェホヴァ神)の支配のもとに暮らしていて、都市もなく、法もなく、一つの言語を話していた。しかしマーキュリー(ベル、クシュ)が、人間の様々な言語を解釈したので、(それ故、英語で解釈のことをヘルメニューテスといいます)それからは同じひとつの個体が分裂して国々ができ、争いが起こり始めた。」と言っています。このことから、ニムロデの父、ベルまたはクシュがしたことを知ることができます。彼は人々を真の神から引き離し、解釈をして人々に異なる神々を吹き込み、別の形式の宗教へと追いやった首謀者なのです。彼は塔を

24 www.messagehub.info

いう説を教えていました。一方、西方教会は反対の見解を持っていて、イエスは神の性質を持っていて父と対等であると信じていました。このようにイエスの神性に関する対立や、異教の儀式の混入などの問題が起こっていたことから、皇帝は 325 年にニケアで宗教会議を開くことにし、すべてのグループを召集して互いの考えの違いについて忌憚なく話し合いをさせました。皇帝はニケア会議で意見の集約をして共通の理解を引き出し、教会をひとつにしようと試みたのです。コンスタンティヌス帝をとおして始まったこの運動が、「世界宗教会議」という名で今日も生き続けているのは奇妙ではないでしょうか。当時コンスタンティヌス帝が、真の意味で達成できなかった試みが、こんにちエキュメニカル運動(教会一致運動)をとおして達成されようとしています。

国家が教会に干渉するのは愚かな行為です。この世はみことばに基づく真理を理解しませんし、教会のあり方もわかっていないからです。会議では、アリウス説の誤謬が決定されましたが、その 2 年後に皇帝が決定を覆したので、何年もの間、人々は間違った教えを信じさせられていました。

ところで教会と国家の結合は、主によって前もって知られていました。ペルガモという名前は、「密接に融

地球上のサタンの御座 13

創始者ベルです。(ベルが町の基礎を築き、この活動すべてのきっかけを作ったと言えるでしょう。しかしその息子ニヌスが町を完成し、最初の王になりました。) ところが聖書によるとニムロデの父はクシュです。「クシュはニムロデを生んだ。」(創世記 10:8) それだけでなく、クシュを生んだのはハムです。エジプトの世界では、ベルはヘルメスと呼ばれました。意味は「ハムの子」です。歴史によれば、ヘルメスは偶像礼拝の大預言者で、異神たちの通訳をしました。彼はマーキュリーとも呼ばれていました。(使徒言行録 14:11-12 参照)

ベルとも、ヘルメスとも、マーキュリーとも呼ばれる異神について、ハイジヌスは、「長い年月人々は神(ローマ以前のことなので、ここでいう神は、ジュピターではなく、ヘブライのイェホヴァ神)の支配のもとに暮らしていて、都市もなく、法もなく、一つの言語を話していた。しかしマーキュリー(ベル、クシュ)が、人間の様々な言語を解釈したので、(それ故、英語で解釈のことをヘルメニューテスといいます)それからは同じひとつの個体が分裂して国々ができ、争いが起こり始めた。」と言っています。このことから、ニムロデの父、ベルまたはクシュがしたことを知ることができます。彼は人々を真の神から引き離し、解釈をして人々に異なる神々を吹き込み、別の形式の宗教へと追いやった首謀者なのです。彼は塔を

建てるようそそのかし、実際に塔を建てたのは息子でした。彼が塔を建てるように仕向けた結果、人々の間に混乱が起こったことから、彼は「解釈者であり錯乱者」であったと言えます。

クシュは多神宗教の生みの親ですから、人々が人間を神格化し始めた時、当然のごとく彼は神々の父となりました。そしてクシュはベルと呼ばれるようになりました。ローマ神話ではベルはヤヌスと呼ばれていました。ヤヌスには二つの顔があり、棒を使って人々を動揺させ、散り散りにしました。ヤヌスは自分のことを「古代人は私をカオスと呼ぶ。」と言ったと、オヴィッドは記しています。ですから、聖書ではクシュと呼び、古代の人々からはベル、ベラス、ヘルメス、ヤヌス等と呼ばれたのが、唯一神に反旗を翻した元祖でした。彼は神々から啓示を受け、それを人々に解釈して伝えていたと言われています。このことによって、神の怒りを買い、人々は散り散りになり、分裂と混乱が起こったのです。

さて、ここまで多神教あるいは神々への信仰がどこから起こったか、見てきました。クシュという名に「神々の父」という称号がつけられたことに、何か気づきませんか。神々を人間と同一視する古代神話の古くからのテーマをここに見ることができます。これが先祖崇拝の始

ローマ帝国の残虐な公的迫害は、コンスタンティヌス皇帝が宗教の自由を認めるまで続きました。宗教の自由が発令された背景には、二つの理由があったようです。まず、歴代皇帝の中には迫害を許さない皇帝が何人もいました。しかし、彼らの後を継いだ皇帝たちはクリスチャンを殺害しましたから、クリスチャンに手を下さないという公的配慮が浸透したと考えるのは軽率でした。もうひとつの理由は、帝国の運命を決める厳しい戦争がコンスタンティヌス帝に迫っていた頃のある夜、白い十字架が目前に立っているのを彼が夢に見たことです。彼はその夢を、もしクリスチャンが彼のために祈るならば、戦争に勝てると解釈しました。コンスタンティヌス帝は、クリスチャンに、戦争に勝った暁には宗教の自由を約束するといいました。戦争で勝利を治めたので、彼は勅令を出して(312 年)、クリスチャンが自由に礼拝できるようになりました。

しかし迫害と死から解放されたとはいえ、始めに思ったほどには寛大な措置でないことがわかってきました。コンスタンティヌス帝は今や後援者です。後援者である彼は、教会に興味を持ち、教会内の様々な問題に干渉し始めました。その一例に、アレクサンドルの司教アリウスに関わる問題がありました。アリウスは支持者らに、イエスは神に造られたので神と対等ではないと

14 www.messagehub.info

建てるようそそのかし、実際に塔を建てたのは息子でした。彼が塔を建てるように仕向けた結果、人々の間に混乱が起こったことから、彼は「解釈者であり錯乱者」であったと言えます。

クシュは多神宗教の生みの親ですから、人々が人間を神格化し始めた時、当然のごとく彼は神々の父となりました。そしてクシュはベルと呼ばれるようになりました。ローマ神話ではベルはヤヌスと呼ばれていました。ヤヌスには二つの顔があり、棒を使って人々を動揺させ、散り散りにしました。ヤヌスは自分のことを「古代人は私をカオスと呼ぶ。」と言ったと、オヴィッドは記しています。ですから、聖書ではクシュと呼び、古代の人々からはベル、ベラス、ヘルメス、ヤヌス等と呼ばれたのが、唯一神に反旗を翻した元祖でした。彼は神々から啓示を受け、それを人々に解釈して伝えていたと言われています。このことによって、神の怒りを買い、人々は散り散りになり、分裂と混乱が起こったのです。

さて、ここまで多神教あるいは神々への信仰がどこから起こったか、見てきました。クシュという名に「神々の父」という称号がつけられたことに、何か気づきませんか。神々を人間と同一視する古代神話の古くからのテーマをここに見ることができます。これが先祖崇拝の始

地球上のサタンの御座 23

ローマ帝国の残虐な公的迫害は、コンスタンティヌス皇帝が宗教の自由を認めるまで続きました。宗教の自由が発令された背景には、二つの理由があったようです。まず、歴代皇帝の中には迫害を許さない皇帝が何人もいました。しかし、彼らの後を継いだ皇帝たちはクリスチャンを殺害しましたから、クリスチャンに手を下さないという公的配慮が浸透したと考えるのは軽率でした。もうひとつの理由は、帝国の運命を決める厳しい戦争がコンスタンティヌス帝に迫っていた頃のある夜、白い十字架が目前に立っているのを彼が夢に見たことです。彼はその夢を、もしクリスチャンが彼のために祈るならば、戦争に勝てると解釈しました。コンスタンティヌス帝は、クリスチャンに、戦争に勝った暁には宗教の自由を約束するといいました。戦争で勝利を治めたので、彼は勅令を出して(312 年)、クリスチャンが自由に礼拝できるようになりました。

しかし迫害と死から解放されたとはいえ、始めに思ったほどには寛大な措置でないことがわかってきました。コンスタンティヌス帝は今や後援者です。後援者である彼は、教会に興味を持ち、教会内の様々な問題に干渉し始めました。その一例に、アレクサンドルの司教アリウスに関わる問題がありました。アリウスは支持者らに、イエスは神に造られたので神と対等ではないと

れた者たちを殺すことで発散していました。彼らの祖先、カインがアベルを殺したのと同じです。

真の教会は、第一教会に対して悔い改めを勧め続けましたが、無駄でした。第一教会はますます大きくなり、その影響力は増加していきました。そして彼らは、真の子孫を中傷する運動を展開し始めたのです。彼ら第一教会だけが主イエスキリストの真の代表者であると主張し、自分たちがローマ教会の起源であること、唯一の第一教会であることを自慢しました。 確かに彼らは第一教会でしたし、今でもそうです。

こうしてこの時代に、相克するふたつの教会が同じ名前で存在するようになりました。片方は真理から離れて偶像と結婚し、いのちを失いました。みずから進んで雑種となったので、死のしるし(いのちではない)があとに続きました。この教会は多くの教会員を得て力が増し、世界から好意的に迎えられました。 もう片方は、迫害を受けた小さな群れです。みことばに従ったので、病気の癒し、死者の生き返りなど、しるしがあとに続きました。こちらの教会は神のいのちとことばを受けて生き生きしていました。しかし自分のいのちに固執せず、死を超えて(殉教)主の御名と主の信仰を守りました。

まりでした。では歴史から先祖崇拝について少し調べてみましょう。クシュが父と子と聖霊の三神礼拝をもたらしたことが明らかにされています。この三神はどれも平等でした。しかし彼は、女の子孫がやがて現れることを知っていましたので、女とその子孫を(礼拝の対象に)登場させなければなりませんでした。 そのきっかけはニムロドが死んだときにやってきました。ニムロドの妻、セミラミスが彼を神格化したのです。そして彼女は息子の母となり、神々の母となりました。(ローマの教会がマリアを神格化したのと同じです。無原罪のマリア、神の母マリアが登場しました)。セミラミスはニムロドを「ゾロアスタ」と呼びました。その意味は、「女の約束の子孫」です。

しかし、子の存在より母である女の方に注目が向くのにそう時間はかかりませんでしが。やがて女が蛇を足の下に踏んでいる様子が描かれるようになりました。人々は女を「天の女王」と呼び、神聖なものとしました。なんと現在と似通っていることでしょう。イエスの母マリアは不滅の存在に格上げされています。それだけでなく、1964 年9月現在、ヴァチカンは不当に高い位をマリアに与えようと試みています。彼らはマリアを「仲介者マリア」「すべての信者の母マリア」「教会の母」と呼ぼうとしているのです。 もしバビロンの先祖崇拝が宗教と

22 www.messagehub.info

れた者たちを殺すことで発散していました。彼らの祖先、カインがアベルを殺したのと同じです。

真の教会は、第一教会に対して悔い改めを勧め続けましたが、無駄でした。第一教会はますます大きくなり、その影響力は増加していきました。そして彼らは、真の子孫を中傷する運動を展開し始めたのです。彼ら第一教会だけが主イエスキリストの真の代表者であると主張し、自分たちがローマ教会の起源であること、唯一の第一教会であることを自慢しました。 確かに彼らは第一教会でしたし、今でもそうです。

こうしてこの時代に、相克するふたつの教会が同じ名前で存在するようになりました。片方は真理から離れて偶像と結婚し、いのちを失いました。みずから進んで雑種となったので、死のしるし(いのちではない)があとに続きました。この教会は多くの教会員を得て力が増し、世界から好意的に迎えられました。 もう片方は、迫害を受けた小さな群れです。みことばに従ったので、病気の癒し、死者の生き返りなど、しるしがあとに続きました。こちらの教会は神のいのちとことばを受けて生き生きしていました。しかし自分のいのちに固執せず、死を超えて(殉教)主の御名と主の信仰を守りました。

地球上のサタンの御座 15

まりでした。では歴史から先祖崇拝について少し調べてみましょう。クシュが父と子と聖霊の三神礼拝をもたらしたことが明らかにされています。この三神はどれも平等でした。しかし彼は、女の子孫がやがて現れることを知っていましたので、女とその子孫を(礼拝の対象に)登場させなければなりませんでした。 そのきっかけはニムロドが死んだときにやってきました。ニムロドの妻、セミラミスが彼を神格化したのです。そして彼女は息子の母となり、神々の母となりました。(ローマの教会がマリアを神格化したのと同じです。無原罪のマリア、神の母マリアが登場しました)。セミラミスはニムロドを「ゾロアスタ」と呼びました。その意味は、「女の約束の子孫」です。

しかし、子の存在より母である女の方に注目が向くのにそう時間はかかりませんでしが。やがて女が蛇を足の下に踏んでいる様子が描かれるようになりました。人々は女を「天の女王」と呼び、神聖なものとしました。なんと現在と似通っていることでしょう。イエスの母マリアは不滅の存在に格上げされています。それだけでなく、1964 年9月現在、ヴァチカンは不当に高い位をマリアに与えようと試みています。彼らはマリアを「仲介者マリア」「すべての信者の母マリア」「教会の母」と呼ぼうとしているのです。 もしバビロンの先祖崇拝が宗教と

して存在するなら、それはローマ教会の宗教です。

バビロンで始まったのは、先祖崇拝だけでなく、自然崇拝もありました。太陽や月などが神として崇められたのはバビロンが最初でした。自然の中でも最たるものが、光と熱を発する天における火の玉のような存在の太陽でした。ですから神々の中で最たる存在が太陽神でバアルと呼ばれました。太陽は炎の円として描かれることが多く、まもなくその炎のまわりに蛇が現れました。そして瞬く間に蛇が太陽の象徴となって、崇拝の対象となっていきました。 サタンの欲望はじゅうぶんに叶い、神として崇められるようになりました。彼の玉座も造られ、奴隷たちがひざまづきました。彼はペルガモにおいて、生きた蛇のかたちで、崇拝されました。善悪を知る木は、今や生きた蛇のかたちをとって、イヴだけでなく人類の大多数を惑わしているのです。

バビロンからサタンの玉座がどのようにしてペルガモに移ったか、歴史から調べてみましょう。バビロンがメディアとペルシャに敗れたとき、バビロンの祭司王アタラスは、祭司らと秘密の儀式を携えてペルガモに逃げ、ローマ帝国の圏外にあるその地で、悪魔の助けを借りながら彼は王国を成長させました。

いくとき、神が語られました、

「エフライムは偶像に、くみしている。
そのなすにまかせよ。」

(ホセア 4:15)

ポリュカルポスはそれからもう戻りませんでした。

アニケトゥスのあとを継いだローマの司教はヴィクトルといい、邪心を抱いていました。彼は第一教会に、さらに異教の祭りと儀式を取り込み、それを真のキリスト教会にも強要して回りました。真のキリスト教会が彼の望み通りに異教の習慣を取り入れなかったことに憤慨して、彼は今度は政府役人を説得して、信者たちを迫害させました。信者たちは法廷に出頭させられ、牢屋に入れられ、多くには死が宣告されました。ウィクトルの邪悪な業績は歴史に残されています。その一例は、セプティミウス・セウェルス皇帝がカリスタス(ウィクトルの友人)に説得されてテサロニケで 7,000 人の信者を殺害したことです。 殺害理由は、第一教会の方針に従ってアシュタルテをおがまず、主イエスに従って過越の祭りを祝ったからでした。

偽のぶどうの木は、生ける神に対する怒りを、選ば

16 www.messagehub.info

して存在するなら、それはローマ教会の宗教です。

バビロンで始まったのは、先祖崇拝だけでなく、自然崇拝もありました。太陽や月などが神として崇められたのはバビロンが最初でした。自然の中でも最たるものが、光と熱を発する天における火の玉のような存在の太陽でした。ですから神々の中で最たる存在が太陽神でバアルと呼ばれました。太陽は炎の円として描かれることが多く、まもなくその炎のまわりに蛇が現れました。そして瞬く間に蛇が太陽の象徴となって、崇拝の対象となっていきました。 サタンの欲望はじゅうぶんに叶い、神として崇められるようになりました。彼の玉座も造られ、奴隷たちがひざまづきました。彼はペルガモにおいて、生きた蛇のかたちで、崇拝されました。善悪を知る木は、今や生きた蛇のかたちをとって、イヴだけでなく人類の大多数を惑わしているのです。

バビロンからサタンの玉座がどのようにしてペルガモに移ったか、歴史から調べてみましょう。バビロンがメディアとペルシャに敗れたとき、バビロンの祭司王アタラスは、祭司らと秘密の儀式を携えてペルガモに逃げ、ローマ帝国の圏外にあるその地で、悪魔の助けを借りながら彼は王国を成長させました。

地球上のサタンの御座 21

いくとき、神が語られました、

「エフライムは偶像に、くみしている。
そのなすにまかせよ。」

(ホセア 4:15)

ポリュカルポスはそれからもう戻りませんでした。

アニケトゥスのあとを継いだローマの司教はヴィクトルといい、邪心を抱いていました。彼は第一教会に、さらに異教の祭りと儀式を取り込み、それを真のキリスト教会にも強要して回りました。真のキリスト教会が彼の望み通りに異教の習慣を取り入れなかったことに憤慨して、彼は今度は政府役人を説得して、信者たちを迫害させました。信者たちは法廷に出頭させられ、牢屋に入れられ、多くには死が宣告されました。ウィクトルの邪悪な業績は歴史に残されています。その一例は、セプティミウス・セウェルス皇帝がカリスタス(ウィクトルの友人)に説得されてテサロニケで 7,000 人の信者を殺害したことです。 殺害理由は、第一教会の方針に従ってアシュタルテをおがまず、主イエスに従って過越の祭りを祝ったからでした。

偽のぶどうの木は、生ける神に対する怒りを、選ば

いでしょうが、事実はそうではありませんでした。ローマ第一教会は人数が増えて大きくなっていったので、皇帝や政治家の政治的関心を引き寄せるようになりました。

そこで第一教会の指導者たちは、政府のひいきに預かっていることを利用して、真の信者が自分たちの一門に加わらない限り迫害するよう、政府にけしかけました。そのようなことをした一人に、アニケトゥスがいました。彼は2世紀ローマ第一教会の司教で、ポリュカルポスとは同期でした。

ローマの第一教会で異教の儀式が行われていることと、福音の真理から堕落している状況を聞いた尊者ポリュカルポスは、そのような行為を悔い改めるよう嘆願するためアニケトゥスに会いに行きました。ポリュカルポスが第一教会で見たのは、使徒像や聖人像の前に身をかがめている人たち、祭壇に蠟燭を灯し、香を焚いている光景でした。また、過越の祭りをイースターという名に変えて、太陽神を崇めるために円形のパンを高く掲げ、神々への捧げものとしてぶどう酒を注いで祝っているのを目撃しました。高齢の身ながら、2,400 キロも旅をして来たのに、徒労に終わったのです。彼らが堕ちていくのを止めることはできませんでした。彼が帰って

以上、ごく簡単にバビロン宗教の歴史とペルガモ時代の到来までを話しました。もちろん多くの疑問が、解答されないまま残っているでしょうが、この書の目的は歴史の勉強ではなく、みことばを究める助けをすることなので、先に進みます。

ローマカトリック教会の始まり

> *「しかし、あなたには少しばかり非難すべきことがある。あなたのうちに、バラムの教えを奉じている人々がいる。バラムはバラクに教えて、イスラエルの人々の前に、つまずきの石を置き、偶像の神に捧げた物を食べさせ、また不品行を行わせた。*
>
> *それと同じように、あなたのところにも、わたしが憎むニコライ派の教えを奉じている人々がいる。」*

(黙示録 2:14-15)

ペルガモ時代に主は、ふたつの憎むべき教えを挙げて非難しています。ひとつはバラムの教えです。バアル・ペオルにおいてイスラエルの人々を偶像礼拝に導

20 www.messagehub.info

いでしょうが、事実はそうではありませんでした。ローマ第一教会は人数が増えて大きくなっていったので、皇帝や政治家の政治的関心を引き寄せるようになりました。

そこで第一教会の指導者たちは、政府のひいきに預かっていることを利用して、真の信者が自分たちの一門に加わらない限り迫害するよう、政府にけしかけました。そのようなことをした一人に、アニケトゥスがいました。彼は2世紀ローマ第一教会の司教で、ポリュカルポスとは同期でした。

ローマの第一教会で異教の儀式が行われていることと、福音の真理から堕落している状況を聞いた尊者ポリュカルポスは、そのような行為を悔い改めるよう嘆願するためアニケトゥスに会いに行きました。ポリュカルポスが第一教会で見たのは、使徒像や聖人像の前に身をかがめている人たち、祭壇に蠟燭を灯し、香を焚いている光景でした。また、過越の祭りをイースターという名に変えて、太陽神を崇めるために円形のパンを高く掲げ、神々への捧げものとしてぶどう酒を注いで祝っているのを目撃しました。高齢の身ながら、2,400 キロも旅をして来たのに、徒労に終わったのです。彼らが堕ちていくのを止めることはできませんでした。彼が帰って

地球上のサタンの御座 17

以上、ごく簡単にバビロン宗教の歴史とペルガモ時代の到来までを話しました。もちろん多くの疑問が、解答されないまま残っているでしょうが、この書の目的は歴史の勉強ではなく、みことばを究める助けをすることなので、先に進みます。

ローマカトリック教会の始まり

「しかし、あなたには少しばかり非難すべきことがある。あなたのうちに、バラムの教えを奉じている人々がいる。バラムはバラクに教えて、イスラエルの人々の前に、つまずきの石を置き、偶像の神に捧げた物を食べさせ、また不品行を行わせた。

それと同じように、あなたのところにも、わたしが憎むニコライ派の教えを奉じている人々がいる。」

(黙示録 2:14-15)

ペルガモ時代に主は、ふたつの憎むべき教えを挙げて非難しています。ひとつはバラムの教えです。バアル・ペオルにおいてイスラエルの人々を偶像礼拝に導

き、不品行を行わせました。もうひとつはニコライ派の教義です。エフェソ時代には、まだ行為の段階でした。この非難のことばと、主が強調するペルガモがサタンの玉座である事実とを統合して考えると、この時代にバビロンの宗教とキリスト教が混ざり合ってしまったと結論できます。

さて、これは単なる推測ではなく歴史的事実なのですが、証明するために紀元約 36 年からニケア会議の325 年までの歴史をふりかえってみましょう。クリスチャン(主に生まれつきのユダヤ人)たちがエルサレムから世界中に散らされたとき、彼らはどこにいっても福音を、主にシナゴグで宣べ伝えました。それで 3 年以内には(紀元約 36 年)ユニアスとアンドロニコによって、福音はローマまで届きました。ローマ書 16:7 によると、彼らは使徒たちによく知られていて、パウロより先にクリスチャンになっていました。福音宣教はローマにおいて成功をおさめていましたが、度重なるユダヤ人同士の論争を理由に、ある時クラウディアス帝はユダヤ人をローマから追放しました。ユダヤ人がいなくなったローマでは、多分長老たちもユダヤ人で追放の憂き目にあったのでしょう、小さな教会の気骨は折られてしまいました。その当時はまだ新約聖書もありませんでしたから、指導者を無くした小さな群れは、簡単に真理から離れ

ていったか、あるいは哲学や異教の教えに流されていったことでしょう。嘆かわしい狼がうろつき、反キリストの霊が解き放たれ、そして歴史が示すように、ローマにおける小さな教会は、絶望的に退廃していき、ついにはクリスチャンと名乗りながら、異教の儀式を取り入れ始めました。

ユダヤ人追放の期間は 13 年に及びました。教会創始者のユニアスとアンドロニコが 54 年頃ローマに戻ってきたとき、嘆かわしいほど異教に成り果てた教会の姿をみて狼狽したことでしょう。そこには祭壇が置かれ、その上で香が炊かれ、異教の儀式が執り行われていました。教会創始者たちは祭壇に近づくことができなかったので、真理にとどまる少数の信者と一緒に新しい教会を始めました。ローマの第二教会とも言えます。神は彼らのはたらきをしるしと不思議をとおして祝福されましたので、さらにひとつ教会が増えました。第一教会は、キリストではなく異教の礼拝をしていることで非難を受けましたが、教会の呼び名を変えることを拒みました。そしていまだに、ローマの第一教会として存続しています。ローマカトリック教会です。

当時クリスチャンは皆、悪魔の標的となり、その挙句、暴君政府の矢面に立たされたと思っている人が多

18 www.messagehub.info

き、不品行を行わせました。もうひとつはニコライ派の教義です。エフェソ時代には、まだ行為の段階でした。この非難のことばと、主が強調するペルガモがサタンの玉座である事実とを統合して考えると、この時代にバビロンの宗教とキリスト教が混ざり合ってしまったと結論できます。

さて、これは単なる推測ではなく歴史的事実なのですが、証明するために紀元約 36 年からニケア会議の325 年までの歴史をふりかえってみましょう。クリスチャン(主に生まれつきのユダヤ人)たちがエルサレムから世界中に散らされたとき、彼らはどこにいっても福音を、主にシナゴグで宣べ伝えました。それで 3 年以内には(紀元約 36 年)ユニアスとアンドロニコによって、福音はローマまで届きました。ローマ書 16:7 によると、彼らは使徒たちによく知られていて、パウロより先にクリスチャンになっていました。福音宣教はローマにおいて成功をおさめていましたが、度重なるユダヤ人同士の論争を理由に、ある時クラウディアス帝はユダヤ人をローマから追放しました。ユダヤ人がいなくなったローマでは、多分長老たちもユダヤ人で追放の憂き目にあったのでしょう、小さな教会の気骨は折られてしまいました。その当時はまだ新約聖書もありませんでしたから、指導者を無くした小さな群れは、簡単に真理から離れ

地球上のサタンの御座 19

ていったか、あるいは哲学や異教の教えに流されていったことでしょう。嘆かわしい狼がうろつき、反キリストの霊が解き放たれ、そして歴史が示すように、ローマにおける小さな教会は、絶望的に退廃していき、ついにはクリスチャンと名乗りながら、異教の儀式を取り入れ始めました。

ユダヤ人追放の期間は 13 年に及びました。教会創始者のユニアスとアンドロニコが 54 年頃ローマに戻ってきたとき、嘆かわしいほど異教に成り果てた教会の姿をみて狼狽したことでしょう。そこには祭壇が置かれ、その上で香が炊かれ、異教の儀式が執り行われていました。教会創始者たちは祭壇に近づくことができなかったので、真理にとどまる少数の信者と一緒に新しい教会を始めました。ローマの第二教会とも言えます。神は彼らのはたらきをしるしと不思議をとおして祝福されましたので、さらにひとつ教会が増えました。第一教会は、キリストではなく異教の礼拝をしていることで非難を受けましたが、教会の呼び名を変えることを拒みました。そしていまだに、ローマの第一教会として存続しています。ローマカトリック教会です。

当時クリスチャンは皆、悪魔の標的となり、その挙句、暴君政府の矢面に立たされたと思っている人が多